長野二日町には昔から俗称伊勢堂と呼ぶ神社がまつられていた。しかし正確には神明社、八幡神社、春日神社の三神合祭の神社で、別当は高野大隅の守が世話をしてきていた。明和八年（一七七一）玉川の大洪水で、八幡野に祠っていた八幡神社が川欠となって社殿を失ったので、御神体はこの神社に合祭され、八幡野は地名として残されるだけとなった。このことは「月の出羽路」にも

「神明宮、八幡大神、春日明神御会殿也、祭日七月二十一日祠官高野美作頭也。八幡宮は古八幡野という地におましましましが明和八年七月二十一日遷宮せり。そは玉川の洪水のために破れて、有りし宮地の迹は淵となれり、さりければ、其のあたりをさして八幡野とはいうといへり。」

と書き留められている。明治のころ、当時の宮司高野菅雄がある夜長野八幡が夢枕に立ち助けをもとめた。驚いて神社にかけつけてみると御神体をかかえた泥棒が逃げ出そうとしていた。宮司はこれこそ長野八幡の御神体であるからと呼んでとりかえしたが馬尾の一部が欠損していたとも伝えられている。